

総合型選抜 2023 年度過去問題 歴史遺産学科

I 次の文を読んで、あとの問い答えなさい。

平安京の街路と街区の方式は中国の古代都市にはじまり、藤原京から平城京を経由して、平安京につながりました。それが日本人の都市像となり、近代の札幌を生み出す基盤を構成した、とみてよいでしょう。

道路感覚だけではありません。古代都市にはじまった多くが、現代につながっています。

いま平城京の東南部分で、周囲に建物を配した池を中心とする庭園を復原しています。一九六七年に発掘した庭園ですが、池は浅く、拳大の石を敷きつめた岸辺は、ゆるやかに傾斜し、美しい曲線を描いて屈曲し、池のなかにバルコニーが張りだした建物もあります。ところが、藤原京や平城京に先行する飛鳥時代で発見されている池は、ほとんどが石を積んだ垂直に近い直線状の岸からなり、平面形が方形ないし長方形の深いものです。平城宮のこの庭園の池とのあいだにはあきらかに断絶があります。日本の庭園は自然の風景を写すことを基本としてきました。奈良時代のこの庭園はこのような日本庭園の起点にあるものです。日本人が庭園に求める日本美がこの時代に成立し、現代につながっている、とわたくしは感じています。

手紙を送るとき、封書の折り返しに「封」と書くことがあります。宛てた人以外の開封を禁止する意思表示です。平城宮では、縛った紐の上から「封」の字を書いた木簡が出土しています。封書の「封」と同じ機能を果たすものです。日本の木簡の手本は中国です。しかし、東洋史研究者の永田永正さんにうかがったところでは、文字どおり「封」と記した木簡は中国ではこれまでのところ未発見だ、とのことでした。とすると、これは木簡を本格的に使用した藤原・平城京の時代に、日本で創案した方式なのか。ともあれ、小さなことですが、われわれの習慣の一つがこの古代都市ではじまった、とみてよいでしょう。

藤原京では、箸はごくわずかししか出土しません。平城京の時代になると、たとえば、長屋王邸からは、箸ないし箸の候補とみてよいものが数百本出土しています。平城宮でも同じように多い。正倉院には新羅の製品とみられる青銅製の匙と碗や皿があります。新羅の遺跡からは同じような金属製品が出土し、朝鮮半島でいま主流である匙を使う食事作法がこのころすでにはじまっていたことが推察できます。しかし、日本には金属製の匙と碗や皿はもちこまれましたが、その食事作法は定着しませんでした。いまわれわれがなじんでいる箸を使用する食事作法がこの日本の古代都市の時代に流入し、そこからはじまったことは確かです。

日本の最初の本格的な銭貨、和同開珎は、藤原京の時代の終わり近くに製造が開始されます。平城京からは、平城宮出土分もあわせて一〇〇〇点ほど出土しています。木簡にも物品名とその価格を何文と書いたものが少なくありません。推定人口三万ないし五万人の藤原京、十万人とする推算のある平城京、これら古代都市の成立は新しいかたちの消費人口の集中をもたらしました。この古代都市で銭貨を介在させる物資の流通方式が確立していくのです。文献史料の伝えるところでは、この時代は銭貨の改鑄と物価騰貴の時代でもあります。日本人が貨幣の流通を経験し、物価の高騰に悩まされる時代がここからはじまったのです。

古代都市の成立は、日本列島における人びとの生活に新しい局面を展開させるきっかけになりました。そして、その多くが現代社会に生きるわれわれにつながっています。

問 1 著者はいくつかの特徴的な事例を挙げて「古代都市にはじまった多くが、現代につながっています」と記しています。これらの事例のなかで最も興味深いものを挙げ、近年の状況を記し、それに対するあなたの考えを 300 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

問 2 著者は古代都市ではじまった習慣の多くが「現代社会に生きるわれわれにつながっています」と述べています。この時代に限らず、過去の社会において日本列島に定着し、現代社会にまで引き継がれている具体的事例を、300 字以内で説明しなさい（字数には句読点を含む）。

Ⅱ わが国の歴史遺産にはさまざまな種類があります。次の㉠～㉤の中から 1 つ選び、あなたが魅力的だと思うところや興味をひかれるところを、具体例をあげながら、200 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。なお、回答した記号を必ず明記すること。

㉠土器

㉡寺院

㉢屏風

㉣城郭

㉤洋風建築